

令和4年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第8回議事録（要旨）

日 時：1月26日（木）午後6：15～

会 場：かたらいの道市民スペース

出席者：委員12名（中里委員長、小餅副委員長、大上委員、高橋委員、木川委員、
牛田委員、田村委員、伊東委員、北山委員、栗原委員、横山委員、島津委員）
事務局 3名

1 開会

2 議題

（1）研修会について【資料1】

・事務局より3月8日に開催予定の研修会について説明。

【委員】集合場所は市役所のどこか。

【事務局】市役所北玄関の前のバスロータリーにご参集いただきたい。

【委員】バス出発の時間が10時という認識でよいか。

【事務局】お見込みのとおり。集合時間より早く着いた方は、市役所ロビーにソファがあるのでそちらでお待ちいただきたい。

【委員】スケジュールが未定だが、前半だけ参加して途中で自分の足で帰るという参加の仕方でもよいか。

【事務局】可能なので、スケジュールが分かり次第ご連絡いただきたい。

（2）令和5年度 憲法月間記念行事について【資料2】

・事務局より第7回議事録（要録）について、委員意見により一部加筆修正した旨を説明。

・事務局より憲法月間記念行事について説明。

【事務局】講演会は伊藤真氏に承諾いただいているが、講演の内容やテーマについて提案いただきたいとの依頼を受けている。

【副委員長】講演会で聴きたい内容があればご提案いただきたい。今日でなくてもご提案があれば2月3日までに事務局へ。

【委員】伊藤真氏を推薦したのでバックグラウンドをお伝えしたい。自分自身が弁護士資格取得を目指して通っていた学校の代表者が伊藤氏で、弁護士として1票の格差や安保法案の違憲訴訟に力を入れている方。著書に「高校生からわかる 日本国憲法の論点」などがあり、学者風ではないため話が分かり易く、理解できると思う。

前回の憲法月間記念行事講演会では、憲法月間記念作品の表彰式が終わると、表彰された方々は講演を聴かずに帰ってしまったのが残念だった。平和の日イベント講演会では、青少年平和交流派遣団の団員もご家族も、団員の発表が終わった後に講演を聴いてから帰っていたと思う。

【事務局】せっかくなので講演まで聴いていただきたいが、難しい内容だと小学生等に講演まで聴くようにはなかなか言えない。平和の日イベント講演会の講演

者であるサヘル・ローズ氏は、中・高生でもわかりやすい講演内容だった。前回の憲法月間記念行事講演会は、コロナワクチン接種の影響で例年とは異なる会場で開催したため、前回とは雰囲気は異なると思う。表彰される方々には講演についてもお誘いするが、どこまで効果があるかは分からない。

- 【委員】表彰式が終わると講演を聴かずに帰ってしまう方が例年多いということか。
- 【事務局】お見込みのとおり。
- 【委員】違和感はあるが強制できるものでもない。
- 【委員】ご家族が用事があったり、子どもも塾に行かなければならなかったり、と忙しいかもしれない。
- 【事務局】今時の子どもは忙しい。
- 【委員】帰るところを見ていると残念に思ってしまう。まるで表彰式と講演会は別の催しで、たまたまタイミングが合ったから併せて実施しているような印象を受ける。
- 【委員】伊藤氏は中・高生向けのお話ができる方だと思うので、市から強くおすすめしてもらえるとよい。
- 【委員】講演のタイトルも堅苦しくない方がよい。
- 【委員】タイトルに「親子で学ぶ」などの文言を入れるのはどうか。
- 【事務局】講演の内容だけでなく、タイトルについてもご意見があれば是非ご提案いただきたい。伊藤氏には、どのように話してほしいか、対象となる年代はどれくらいかということも含めてお伝えしたい。
- 【委員】タイトルに「親子で学ぶ」という文言を入れるなら、小・中学校へも広報できるとよい。
- 【委員】毎回小・中学校へも広報はしていると思う。
- 【事務局】小・中学校へちらしの配布はしているが、枚数の上限が設定されている。運動会シーズンであることは心配だが、なるべく効果が高くなるよう工夫したい。
- 【委員】顔を合わせて話し合いができるのは今回の会議が最後か。
- 【事務局】対面での打ち合わせは、今回が最後であるのでご意見をいただきたい。時間が限られているため2月3日までにご提案いただき、次回会議で報告したい。
- 【委員】伊藤氏がアメリカ人の友人に「日本の憲法では何が1番大事なのか」という質問に対して即答できず、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の三原則のなかで何が重要か考えた時に、「国民主権」「平和主義」を実現させるために、「基本的人権の尊重」が必要だと気付いたという話が印象に残っている。
- 【委員】伊藤氏が憲法月間記念行事講演会で講演されるのは2回目。
- 【事務局】前は平成29年にご講演いただいている。
- 【委員】前回の講演では機関銃のように、ヒトラーがいかにして権力を握ったかについての話などをされていた。勢いがあり圧倒されたことを覚えている。一方で、伊藤氏は中・高生向けの本も出版されていて、話の分かり易さに定評がある方。ロシアによるウクライナ侵攻についての話は、難しい内容となる可能性はあるが聴きたいと考える人は多いと思うので、日本として何ができるか聴きたい。

- 【委員】令和4年度の講演会では、憲法第9条について深く掘り下げて話されていたので、令和5年度は第9条に限らず広い視点でお話してもらえるとよい。
- 【事務局】伊藤氏の前回講演は、タイトルが『くらしと憲法～今こそ「憲法の力」をつけよう！』で、会場は武蔵野スイングホール、参加者は106名だった。
- 【委員】伊藤氏からは講演内容について提案などないか。
- 【事務局】内容やタイトルについて提案いただけないと話せないとのこと。
- 【委員】SDGsというキーワードに引っかけて、憲法について話せないか。
- 【委員】憲法は人権、SDGs、LGBTなど様々なワードと絡められると思う。
- 【委員】武蔵野市のまちづくりで重要なキーワードである「多様性」と憲法を上手く絡めて、「誰も取りこぼさないまちづくり」というテーマで話してもらうのはどうか。
- 【委員】柔らかくする部分も必要。憲法を生きる力とするにはどうしたらよいか聴きたい。今の子ども達は自由に生きているようで周りの目を気にしながら生きている。平和や多様性を認め合うことについて、若者へのメッセージを発信してもらい、聴いた人が若者に伝えられるとよい。平和の日イベント講演会では、サヘル・ローズ氏の講演はとても良かったが、若者の参加者が少ないことが残念だったので、講演を聴いた人が若者へ伝えてくれるとよい。
- 【副委員長】伊藤氏は試験対策の本も出版されているので、学生が話を聴きたくなるような言葉をタイトルなどに取り入れるのはどうか。
- 【委員】生きづらさを払拭するイメージで講演いただけると、共感する人も多いのではないか。
- 【副委員長】講演内容やタイトルについて、様々なキーワードが出てきた。
- 【事務局】若者が聴きたくなるような内容で、生活や生きることに結びつくようなお話をしていただけるようお伝えしたい。2月3日まではご意見を募集するので、他に何かあればご提案いただきたい。

(3) 令和5年度 市関連施設におけるイベントの日程及び場所について【資料3】

- ・事務局より市関連施設におけるイベントの日程及び場所（案）について説明。
- 【委員】期間やタイミングは例年通りという認識でよいか。
- 【事務局】お見込みのとおり。
- 【委員】南北自由通路はなこみちでの夏季平和事業パネル展は、去年は8月の終わりに実施していたような気がする。
- 【事務局】去年は青少年平和交流派遣事業があり、8月上旬は長崎への派遣を控えていたため、スケジュールを考慮していた。週末は南北自由通路はなこみちのスペースがなかなか空かないということも理由で、そのような日程となっていた。
- 【委員】武蔵野市ではお盆は市内から人が少なくなる。
- 【委員】南北自由通路はなこみちは市の施設ではないと思うが、全体のスケジュール感として示しているということか。
- 【事務局】お見込みのとおり。
- 【委員】パネル展は終戦の日が終わってから開催するよりは、早い日程で開催する方がよい。

- 【委員】第六期長期計画で分野名に「平和」が追加されたことで、何か新しい事業をやるというようなことを聴いたが、どうなったか。
- 【事務局】まだ具体的な話になっていないが、庁内では各部署がそれぞれで担っていることを整理して連携できないか話し合いを進めている。ロシアによるウクライナ侵攻があり、平和に対する捉え方に変化があるなかで、今後必要なことについて、外部の方に話し合いにご参加いただく予定だが、議論の進め方や参加者の集め方については未定。実行委員会が直接関わるわけではないが、平和事業としてどういうことをやるべき、という意見はいただければと考えている。
- 【委員】例年通りのスケジュールでよいのか気になり質問した。
- 【事務局】平和事業としてイベントを増やすというよりも、今あるものをどう見せたりつないでいくかかと思う。参加者に戦争や平和について知っていただく機会を提供していても、その先の人権や暴力について話し合うような機会をつくれていないと感じている。青少年平和交流派遣事業では、団員が参加者と戦争が起きないためにどうすればよいか話し合う場があった。市として他事業と上手く結び付けてどのように見せていくか、進展があればまたお知らせしたい。
- 【委員】戦争には被害と加害がある。武蔵野市は中島飛行機武蔵製作所があることで空襲の被害を受けたと同時に、巨大軍需産業に加担していたまちでもある。被害については伝えやすくて、加害の歴史は自分達の祖父や祖母の世代が加担していたという事実を知るとはショックを受けると思う。戦争の加害の歴史について、実行委員会のテーマとして考える機会があってもよい。
- 【事務局】庁内で話し合いを進める中で、戦争の加害についてどう伝えていくかということは課題にあがっている。多文化共生・交流課で、韓国との交流事業を実施しているが、韓国人と交流する子ども達が日本と韓国の歴史について全く知らない状態で参加してよいのかということも課題となっている。具体的なことは決まっていないが、パッケージ化しないと難しいのではないかな。
- 【委員】平和と戦争は対義語に思えるが、平和は状態を、戦争は行為を表す。戦争がないことだけが平和ではなく、障害を抱える方や平穏に暮らすことが難しい方にとっては、平穏が脅かされること自体が平和な状態ではない。壮大な話になってしまうがそういった視点があってもよい。
- 【事務局】中島飛行機武蔵製作所のことだけでなく、人権や相互理解についてもとなると、要素が多くて話がまとまらないことは事実だが、そのようなことにも着眼しなければと考えている。事業の検討に向けて動き始めたところ。
- 【委員】平和と言っても様々な分野があって話が広がるが、手を広げすぎるのもよくない。中島飛行機武蔵製作所の話などの芯は残しておいて、その都度コラボするような方法がよいのではないかな。

(4) その他 備品の購入について【資料4】

- ・事務局より平和パネル展で必要となる備品の購入について説明。

【委員】金額が高いように感じるが、費用はこれくらいかかるものか。

【事務局】お示ししている通りのお見積り。

【委員】これくらいかかると思う。

【副委員長】破損していて必要とのことなので、購入するという事によろしいか。
→賛同。

・事務局より2月開催予定の研修会における西原氏による講演について説明。

【委員】西原氏の体調次第ということは、1週間前に日程が決まっていきなり開催するということもあり得るか。

【事務局】会場の確保や広報が必要となるため、急に日程を決めて開催というのは難しい。

【委員】一般の方も参加可能とするか。

【事務局】西原氏としては人をたくさん呼びたいとのことだが、研修会なので基本的には実行委員向けで考えている。

【委員】市役所職員は参加するか。

【事務局】市職員には声を掛けて、市役所内で1番広い会場くらいの規模で開催できればと考えている。西原氏と相談したい。

・今後の平和事業について委員よりご提案。

【委員】来年の実行委員会では委員が異なると思うが、今後の参考として2点提案したい。

①カラーリーフレットの発行

現在は実行委員会の報告書や平和・憲法手帳を発行していると思うが手軽に普及できる両面リーフレットがあるとよい。中島飛行機武蔵製作所の写真と解説とともに、実行委員会の平和事業の活動について掲載するのはどうか。観光機構では東京都からの助成金も受けて平和散策マップを6万部発行したので、平和事業でもそういうことができるとうい。

②街中に常設のパネルを設置

ドイツでは常に街中にパネルが設置されていて、パネルを見れば「ここでこういうことがあった」と分かるようになっていると、ホロコーストの研究をされている方から伺った。加害の歴史も含めた戦争の様子が常に見られる。武蔵野市ではふるさと歴史館があるが、市内の真ん中に設置するなどハードルが高い。常設は難しいかもしれないが、市の用地や駅などに「かつてはこういうまちだった」と、加害のことも含めてインパクトのある写真を選んで設置すれば、広告のようにできるのではないか。武蔵境駅内に昔の駅舎の写真が展示されているが、通る人は見るので、空襲を受けた街並みの写真などを常設できればアピール性を持つ。是非ご検討いただきたい。

【副委員長】コミセンでもカラーリーフレットを発行している。最近の流行りかもしれない。

【委員】実物でなくてもWEBで見られるようにするなど、バーチャル上に地図や写真があればよい。広島ではそのような取り組みが進められている。

【委員】二次元コードを読み取れば音声の説明が流れるようにしたり、立体的に表示されたりというような方法はとてもよい。

【委員】最近NHKで放送された零戦設計者の話の中で、中島飛行機のことを紹介さ

れていたが、武蔵野市には触れてもらえなかった。放送前に知ることはできないか。

【事務局】NHKで放送された「バタフライエフェクト」のことだと思うが、番組の中で流れていた中島飛行機武蔵製作所が空爆される映像は、ふるさと歴史館でも観たことのあるものだった。

【委員】テレビで放送される前に、市へ事前に情報が入るようにはできないか。

【事務局】市が提供したものではないので、なかなか事前に連絡をとるのは難しいと思うが、番組で中島飛行機武蔵製作所の映像が流れているので、活用できないのはもったいないと感じた。ふるさと歴史館の企画展で同様の映像が流れていたのでは、武蔵野版で企画できないか検討したい。

【委員】やはりプロが作成したものはストーリー性があって、関心のない人でも観られるのではないかと思う。

【委員】広島市役所では被爆者の話を聴いた高校生が描いた絵の貸し出しを行っていて、問い合わせたところ送料のみで借りられるとのことだった。毎年夏季平和事業パネル展ではけやき会から借りたものしか展示していないので、借りてみてもよいのでは。

【委員】広島市立基町高校の学生が、被爆者の体験談を聴いて原爆の絵を描いている。

【事務局】広い世代に知ってもらおうという意味でもよい。

【委員】10 か月先の話になるが、武蔵野市平和の日の周知に向けて、市内の学校へ出前授業のように訪問するのはどうか。講師を誰にするかという課題はあるが、2～3年続ければ市内の公立学校を周ることができる。

【事務局】各学校でも被爆者の方の話を聴く授業など、取り組みをしている。学校側に選択権があるため、全校でやるというのはなかなか難しい。実施するには学校へ提案する際にプログラムが完成されている必要があるため、企画を練り、吟味して学校側と話し合うことになるが、実施可能なら実行委員会の活動として成立する。

【委員】若者へのアプローチは重要。

【委員】授業内容は要相談で、学校へ提案できるとよい。

【事務局】提示できる企画が必要だが、内容について練っていくことも1つの活動になる。

【委員】武蔵野の森を育てる会では、出前授業を実施する際には学校の先生から先に要望をいただいて開催する。

【委員】総合学習として、学生が地域のことを知ることを目的としている。

【委員】事前学習の実施もしている。

【委員】国際交流協会としても外国人との交流や国際理解について、教育内容に等しく組み込んでもらう働きかけをしたことがあるが、新たな学習項目のカリキュラム化はハードルが高いと思う。

【委員】実行委員会としてこういう引き出しを持っているとアピールできれば、少しずつチャンスが増えると思う。学校側も実は探していた、ということがあるかもしれない。

【委員】リーフレットで宣伝できるとよい。

- 【委員】島津さんは各学校で戦争体験者としてお話されているかと思う。教育現場には、交通安全や薬物使用など様々な話が届く。
- 【委員】昨日は自由学園で戦争体験の話をした。1週間に2回くらい学校などで話している。中学生になると話している内容が理解できるが、小学校低学年の子ども達に向けて話すのは難しいと感じる。学校によっては保護者の参加も可としていて、よい取り組みだと思う。
- 【委員】延命寺の戦争関連資料が活用できるとよい。爆弾の破片などを実際に触ってみるとその重さに驚く。
- 【事務局】延命寺の戦争関連資料をいつでも触れるような状態が理想。今後の検討の中で参考にしたい。

・次回の委員会は、3月23日（木）午後6時15分～かたらいの道市民スペースで開催する。

3 閉会